

平成23年12月6日

南丹市教育委員会
教育長 森 榮一 様

南丹市教育の在り方懇話会
座 長 山口 満

南丹市におけるこれからの教育の在り方について（提言）

平成23年6月2日、本懇話会に対して提言依頼のありました、南丹市におけるこれからの教育の在り方について検討協議を重ねてまいりました結果、次のとおりの結論を得ましたのでここに提言いたします。

はじめに

本懇話会は、本年 6 月に提言依頼を受けて以来、南丹市の教育の現状と課題を共通認識することから始まり、専門的な見地と市民としての視点の両方の視座をもって、南丹市の教育の将来像を思い描きながら活発に議論を重ねてきました。とりわけ、少子高齢化の中で、未来に生きる子どもたちの存在の意味がますます大きくなっていく今日にあっては、長期的視点を持った教育の推進が必要であるとの認識から、本市の特性を踏まえた長期的なビジョンの策定に資する教育の基本理念をまとめました。将来を見据えた南丹市に相応しい教育ビジョンが策定されることを願って提言いたします。

第 1 章 南丹市教育の現状

南丹市における特徴的な現状として、高齢化とともに少子化の急速な進行が挙げられます。市の人口動態を見ると平成 18 年合併時から減少の一途を辿っていることがわかります。国勢調査の結果から平成 22 年 10 月現在と平成 17 年 10 月現在とを比較した場合、市の総人口はこの 5 年間に 1,522 人減少し、内、15 歳未満の年少人口は 589 人の減少であり、市全体の人口減少数の 4 割近くを占めるといふ驚くべき急速な少子化傾向の現状が見られます。これに伴い、本市の多くの小学校において学校の小規模化が急速に進行しており、学校教育上の大きな課題となっています。

一方、南丹市の特徴として、豊かな自然や薫り高い伝統文化等の豊富な教育資源が挙げられます。とりわけ、市内には各種の高等教育機関や教育施設が多く存在しており、市全体が学習のキャンパスとしての様相を備えていると言えます。また、これらの教育資源を活用した地域活動や古来の伝統を受け継ぐ各種祭事等が脈々と続けられ、加えて、これらの活動が CATV（ケーブルテレビ）により視聴が可能となる情報通信の整備が着実に進められています。これらは、これからの南丹市のコミュニティの在り方、さらには教育の在り方を考える上でも重要な要素です。

また、市施策の指針として策定された『南丹市総合振興計画』の基本理念である〈市民の感性あふれる視点が生き、高齢者や障がいのある人の願いが尊重され、子どもたちの夢が豊かに育まれるまちづくり〉の具現化へ向けて教育が果たす役割は極めて大きいと考えます。その際、より着実な具現化を進めるには長期的な展望と、これを踏まえた年次計画によって進める必要があると考えます。

以上の現状・課題を踏まえた南丹市の教育の在り方を論議することは将来に向けて大変有意義なことであると言えます。

第2章 南丹市における教育の基本理念

1. 南丹市教育の基本理念

長期的な視点を持って教育を進めるためには、その考え方の軸となる「教育の基本理念」が必要となります。

このため、まず前述の南丹市における教育の現状を踏まえて今日まで大切にされてきた〈人・もの・こと〉や、将来に向けて大切にすべき〈人・もの・こと〉について論議を行いました。

合併6年目を迎えた南丹市において、旧来から大切にし、そして将来に向けても大切にすべきは、「ふるさとを知る」という旧町の特徴や特性を生かしつつ、「ふるさと南丹市を愛する」という南丹市全体を一体的に捉えようとする考え方が重要であるということです。これからの時代を生きていく市民にとって、ふるさと観が広がり、「ふるさと南丹市」においてともに生きようとする意識が高まっていく必要があります。

懇話会では、こうした考え方を共通認識しながら、南丹市の教育が目指すべき市民像についても論議を進め、様々な教育施策や取組を通して心豊かでともに生きようとする市民を育てていくことが重要であるとの方向性を確認しました。併せて、この育みにおいては、人権尊重の精神の涵養に努めることが国民としての責務であることに鑑みるならば、人権に関する学習を生涯学習の中心に位置づけることが重要です。

したがって、以上の論議の経過と内容をまとめると、南丹市の教育がめざす市民像として、

〈人権が尊重される温もりのある地域社会の一員として、自然と文化の薫り高いふるさと南丹市を愛し、生涯にわたって主体的で心豊かに学び続け、ともに生きようとする市民〉

を掲げることが、南丹市における教育の基本理念につながるものと考えます。

2. 学校教育がめざすもの

本懇話会では、南丹市の学校教育の現状を踏まえ、子どもたちの将来に向けて育むべき力として特に重要なものについて議論を進めました。

現在、南丹市において急速に進行する少子化の現状は、将来の南丹市の担い手が大きく減少することを意味しています。このことはとりもなおさず、子どもたちの存在や役割が今後ますます大きくなっていくということです。したがって、今、一人一人の子どもたちの育ちをより豊かで確かにしていく必要があります。

市校長会等の報告によれば、市内の小学校児童に見られる実態としては、素直で友達思いであるけれども、主体的に判断することや、仲間とともにチャレンジ

することや創造的なことに取り組むことなど、いわゆる「たくましく生きる力」に課題があるとされています。

このような現状を踏まえる時、今日子どもたちには、「生きる力の要素としての確かな学力、豊かな人間性、健康・体力」の育みとともに、「人間同士がつながる力」を育てていくことが極めて重要です。

これまでから、南丹市においては「縦のつながり」としての保育所・幼稚園・小学校・中学校の連携が重視され、その教育的効果も確認されています。更に「横のつながり」として、時には学校の枠を超えた同学年交流の取組等、集団の規模を拡大するという学びの環境を整えることによって、子どもたちの「たくましく生きる力」の育みが促されることも実践的に明らかになってきています。

このため学校教育においては、豊かな集団活動を通してつながり合う場面を大切にした様々な形での取組や、このことが可能となる教育行政としての責務である教育環境整備が不可欠です。教育行政による条件整備と学校現場の主体的な教育活動が相俟って、はじめて〈生涯にわたって学び続ける意欲と基礎基本となる力を育む教育〉〈豊かな自然と四季折々の行催事が行われる文化の薫り高い郷土・南丹市を愛し、よりたくましく生きる力を育む教育〉〈ふるさと南丹市の中で、人と人とのつながりを大切に、深め合っていく豊かな人間性と社会性を培う教育〉がより充実していくと考えます。

以上から、南丹市の学校教育には、

〈幼児・児童生徒一人一人に、生涯にわたって学び続けることができる基礎基本の習得を図りながら「ふるさと南丹市」を愛する心を育み、未来に向かってたくましく生きる力を育成する〉

ことを求めたいと考えます。

3. 社会教育がめざすもの

これからめざすべき社会教育の在り方についても、前述の学校教育と同様に、南丹市の社会教育の現状を踏まえながら議論を進めました。

旧4町が合併した南丹市には、それぞれ町の地域個性と言われるものがあります。これを単なる差異として捉えるだけでなく、地域づくり・文化づくりを考える上での重要な特徴として捉えることによって、そこに脈々と築き上げられてきた人々の生活や歴史をベースとする南丹市全体の特性を見出すことができるものと考えます。

旧町の特徴を一体的に捉えて市の特性化を図ることは、「ふるさと南丹市」という市民意識を育み、市民の感性の育ちにおいても好影響を及ぼすものでもあると考えます。だからこそ、地域で生活を営む上において、暮らしを支えてきた様々な学習や文化・スポーツ活動を継承し、その発展を図ることは地域における多様

な教育施設の有効的な活用と各種の学習機会の提供などを含めて、今後も市民活動の向上を図る上で不可欠な営みであり、社会教育が担うべき役割は大きいものがあると考えます。

一方、地域社会の現状として、地域コミュニティが変容してきているという実態があります。特に、コミュニティ内における人間関係が希薄化してきていることが課題となっている中においては、「人と人がつながり」、「地域がつながり合う」ための学習や取組が必要です。とりわけ、人権を尊重し合ってより深いつながりを育てていくためにも、人権に関わる学習機会が効果的かつ身近に展開されることが重要であり、これらの地道な取組によって温もりある地域社会が形成されていくものと考えます。また、今日的な地域社会の状況の中で、女性の果たす役割が大きくなってきており、生涯学習の視点から、これを推進する学習機会の充実も重要です。さらに、地域社会における社会教育活動の企画や運営等のリーダー的役割を果たすことのできる人材の育成を図ることも、これまで以上に重要となってくると考えます。

加えて、家庭の教育力の低下ということが言われる中であって、親と子のしつかりとしたつながりを育む手立てとして、子育てや家庭教育に対する支援が必要であり、そのためにも学校教育と社会教育の融合した取組や、福祉分野とのより一層の連携が必要であると考えます。

以上から、南丹市の社会教育には

〈市民一人一人が生き生きと学び続けることができる生涯学習社会の構築をめざし、互いにつながり合い豊かに生きるために必要な学習機会の充実や文化・スポーツ活動の振興を図る〉

ことを求めたいと考えます。

南丹市教育の在り方懇話会 構成委員

委員名	役職等
山口 満	筑波大学名誉教授 【座長】
原 清治	佛教大学 教授
高木 茂	南丹市文化協会 会長
松本 明美	南丹市婦人会 会長
堀川 勝久	南丹市立小学校長会 代表